

## 点検・評価シート（2）

# 健康都市やまとMANAB I 計画

## （大和市生涯学習推進計画）

（教育委員会所管分）

### ◆ 評価の基準について ◆

#### ○施策目標の「総合評価」

A評価	施策目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れていない。



#### ○個別目標の「達成度」

A評価	個別目標の進捗状況が、令和3年度に期待された結果を上回っている。
B評価	個別目標の進捗状況が、令和3年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	個別目標の進捗状況が、令和3年度に期待された結果を下回っている。

## 施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

市民の学びを推進するにあたっては、多世代にわたって誰もが自らの意思で学び始めるきっかけづくりが重要です。

そのために、誰でも気軽に学習できる場を提供することで、学習への興味や意欲を湧き立たせ、より多くの人々に自己の充実、生活の質的向上をもたらすことができます。

### 個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

- ・人口減少社会の到来、人生100年とも言われる長寿社会の到来という新たな時代の中で、生涯学習においても、社会状況の変化に対応していく必要があります。
- ・特に、退職後、地域とのつながりが少ない方や同居家族のいない方などの「おひとり様」を対象に、学習機会や「居場所」の提供などを進め、これらの人たちが充実した毎日を過ごせるよう支援していくことが必要です。
- ・そこでは、人と人との新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上が期待されます。

#### 【めざす姿】

市民の学びに関わる機会が増えている。

#### 【施策の内容】

- ① 「健康都市大学」を開講します。
  - ・「大和市民大学」を大幅にリニューアルし、市や関係団体等が実施する学習機会を、共通の仕組みで一つにつなぐ「健康都市大学」を開講します。
  - ・そこでは、市民が講師となり市民に教授する講座等を充実させるなど、学びを通じた、市民の居場所づくり、交流の場づくりを目指します。
- ② 市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
  - ・「文化創造拠点シリウス」を中心に、「市民交流拠点ポラリス」、各地区学習センターなどを市民の「居場所」としても活用し、学習に触れる機会を提供します。
- ③ 誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。
  - ・主に、学習センターの一部の会議室等を、誰でも自由に学習できるスペースとして開放し、市民が気軽に利用できる学習の場を提供します。
  - ・「シリウス」や「ポラリス」に設置している市民交流スペースをはじめとした、誰もが自由に利用できるスペースを提供します。
- ④ 気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。
  - ・いつでも、だれでも、だれとでも利用できる図書館を「市民の居場所」として提供するとともに、一人ひとりの知的好奇心に応じた学習の場を提供します。

## 個別目標1-(1)を達成するための主な取組

### 1 健康都市大学の開講（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

- 【関連する施策の内容】①健康都市大学を開講します。  
②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

- 健康都市大学は、市民自身が持つスキルや知識、経験を基に、市民が講師を務める「市民でつくる健康学部」、市や外郭団体などが市民向けに実施している講座から成る「人の健康学部」と「まちと社会の健康学部」の3つの学部で構成しています。
- 健康都市大学の特徴的な学部である「市民でつくる健康学部」では、いつでも誰でも気軽に参加できる市民講師の講座に加え、シニア世代等の地域デビューのきっかけづくりを目指し、市の課長級職員や市民団体による施策や活動紹介などの講座も開催しています。
- 「市民でつくる健康学部」は、新型コロナウイルスの感染対策として、定員の制限を設け、また、受講者には、講義中での発言をご遠慮いただくなどのお願いをしていますが、2021年度は、延べ6,686人の方に参加をいただきました。
- 活動指標と成果指標の数値を用いて1回あたりの受講者数を比較してみても2020年度は25.2人、2021年度は26.6人と増加しており、コロナ禍にあっても、市民の学びの意欲にこたえたとともに、居場所としての役割を果たすことができていると判断しています。
- 「人の健康学部」や「まちと社会の健康学部」を構成する市や外郭団体等が実施する講座などをまとめた「健康都市大学ガイドブック」を発行し、学びの情報の一元化と、分かりやすい情報提供に努めました。



健康都市大学 「市民でつくる健康学部」

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	※2 2020	2021	2022	2023	
○健康都市大学の開講数	回	—	309	96	251			363

※1 計画策定時（2017年）は、健康都市大学は事業創設前のため実績なし。

※2 健康都市大学は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い2020年2月22日(土)～8月31日(月)及び2021年1月10日(日)～3月21日(日)まで休講。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康都市大学の受講者数	人	—	9,535	2,419	6,686			2,600

### 今後の課題

- 多くの市民が学ぶ楽しさを実感できるよう、引き続き魅力的な講座を実施していくとともに、より気軽に参加できる方法について検討していく必要があります。
- 健康都市大学の認知度を高めると同時に、市民講師のモチベーションを維持、向上するための方策について検討していく必要があります。
- 感染状況によっては、定員の拡大または撤廃等を検討することが必要と考えます。

## 2 学習センターにおける学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

③誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。

- ・文化創造拠点シリウス2階のラウンジを個人の勉強や読書、リモートワークの場として提供したほか、シリウス・ポラリスでは予約せずに誰もが利用できる市民交流スペース、各学習センターでは当日の団体利用の無い空き会議室を有効に活用した学習室開放を行いました。
- ・2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休館期間が無かったため、1年を通じて、学生をはじめ、多くの方の学習の場、居場所の提供をすることができました。
- ・成果指標である、市民一人当たりの学習センター来館回数は、ソーシャルディスタンスを確保するための座席制限、特措法に基づく緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出に伴う開館時間の短縮等により、コロナ禍前の水準には戻り切ってはいませんが、前年度と比較すると増加しており、最終目標値の達成に向けて順調に推移していると考えます。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値				最終目標値 (2023)
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	
○学習センター の開館日数	日	生涯 363	332	272	359		364
		ポラリスー	328	277	359		360
		つきみ野 308	326	267	270		358
		桜丘 131	326	267	357		358
		渋谷 346	317	258	346		347

※1 計画策定時（2017年）、ポラリスは開館前のため実績なし。地区館は直営のため月曜休館。また、桜丘学習センターは改修工事のため2017年9月～2018年3月まで休館。

※2 2019年度は、2019年10月12日(土)大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日(日)～31日(火)があった。

※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日(水)～6月30日(火)（渋谷図書館は5月31日(日)まで）があった。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値				最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	
○市民一人当たりの学習センター来館回数	回	4.74	8.64	2.28	5.72		6.42

### 今後の課題

- ・市民交流スペースは、コロナ禍においては接触をできるだけ回避することが求められることから、場所の提供による市民交流や地域とのつながりを促すことが難しい状況です。
- ・今後は、市内の感染状況や国や他市の動向を調査しながら、団体やサークルにとって活動しやすい環境をいかに整備していくかが課題です。

### 3 図書館における学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。

④気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。

- ・文化創造拠点シリウスを中心とした3つの図書館において、それぞれの地域の特性に合わせた施設運営を行っています。
- ・中でも大和市立図書館は、文化創造拠点シリウスの「全館まるごと図書館」というコンセプトのもと、館内には神奈川県下で最も多い987席の座席を配置し、館内どこでも図書館の本を読むことができる居心地のよい空間づくりに努めました。
- ・2021年度は、2年ぶりに全ての図書館を計画どおりに開館し、感染防止対策を徹底しながら、市民の学習の場、居場所を提供しました。
- ・成果指標である、図書館の来館者数は、文化創造拠点シリウスが約223万人、中央林間図書館が約64万人、渋谷図書館が約15万人で、合計約301万人となっており、2017年度の計画策定時の水準近くまで回復することができました。

#### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 ※1 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			※2 2019	※3 2020	2021	2022	2023	
○図書館の開館 日数	日	本館 363	332	272	363			363
		中央林間一	332	277	363			363
		渋谷 308	317	287	346			346

※1 計画策定時（2017年）は中央林間図書館は開館前のため実績なし。

※2 2019年度は、2019年10月12日(土)大型台風19号に伴う全館休館が1日、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年3月1日(日)～31日(火)があった。

※3 2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館期間2020年4月1日(水)～6月30日(火)（渋谷図書館は5月31日(日)まで）があった。

#### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○図書館の来館 者数	人	3,053,751	4,002,361	1,922,640	3,010,193			4,177,000

#### 今後の課題

- ・2021年度からは、全館一括での指定管理者による運営体制が整ったことから、それぞれの図書館が地域に根差した特徴ある図書館としての機能を十分発揮するだけでなく、各図書館が連携し、横断的な図書館サービスを展開するための管理運営のあり方を検討する必要があります。
- ・今後は、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、制限の実施や緩和を行う等、適切なサービスが提供できるよう指定管理者と都度協議していく必要があります。



中央林間図書館

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

[達成度]

**B**

## 個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

- ・人口減少社会の到来をはじめ、グローバル化や情報化の進展など、今日の社会状況は目まぐるしく変化しています。
- ・このような社会を生き抜き、充実した生涯を送ることができるよう、一人ひとりの生涯各期に合わせた学習機会の提供が必要です。

### 【めざす姿】

乳幼児から高齢者まで全ての世代にわたって、意欲的に楽しく学習する市民が増えている。

### 【施策の内容】

- ① 乳幼児期に対応する学習機会を提供します。
  - ・乳幼児の健全な心身と生活の基礎を養うとともに、保護者の子育てに関する悩みや不安などが軽減されるような学習機会を提供し、家庭教育支援を推進します。
  - ・保護者同士の交流の場や学習の場を設けて、乳幼児と保護者がともに学び、成長できるような機会を提供します。
  - ・様々な読書活動を通じて乳幼児と保護者がさらにふれあいの時間を持つきっかけとなるような機会を提供します。
- ② 青少年期に対応する学習機会を提供します。
  - ・「社会を生き抜く力」を養うために、生涯にわたって学び続ける意欲や、自らが考え、判断し、行動できる資質や能力を身につける学習機会を提供します。
  - ・青少年が、社会体験や自然体験など様々な体験により、自主性や協調性を養うことができる学習機会を提供します。
- ③ 成人期に対応する学習機会を提供します。
  - ・家庭、地域、職場での生活を豊かにするため、趣味や教養、就労などに関する学習機会を提供します。
  - ・高齢期に向けて、新たな生きがいの発見や地域とのつながりを促す機会、また健康づくりのための学習機会を提供します。
- ④ 高齢期に対応する学習機会を提供します。
  - ・高齢化に伴う新たなライフスタイルに対応した、趣味や教養、健康に関する学習機会を提供します。
  - ・学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいを持つとともに、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような学習機会を提供します。



## 個別目標1-(2)を達成するための主な取組

### 1 乳幼児期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①乳幼児期に対応する学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、乳幼児期における問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を市や地域、学習団体と連携して提供し、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・2021年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、外出の自粛を求める流れが続いていること、また感染状況次第で講座やイベントが中止となる可能性もあることから、昨年度に引き続き、各館でオンライン講座を実施しました。
- ・生涯学習センターで開催した「子育て応援！オンライン講座」では、親子あそびや悩み相談などを通じて、子育ての情報や親子のふれあいの機会の提供を行いました。
- ・「出産後、コロナが流行し、あまり外部と交流できない中、とても有益で楽しく、ありがたい時間が過ごせました」、「参加者全員でリレー形式に物語を作って行く部分も楽しかった」など、同世代の子どもを持つ保護者同士のつながりづくりのきっかけにもなり、孤独感や不安感の払拭に寄与しました。
- ・また、「講座情報をもとに子育て支援施設に実際に足を運んでみた」「子育てネットワークに入るきっかけにつながった」などの参加者からの報告を講座後にいただき、継続的に学ぶ意欲につながっていることが確認できました。
- ・図書館では、本市の子ども読書活動推進計画として位置づけられる「こども読書わくわくプラン」に基づき子どもの読書活動推進のための様々な取り組みを進め、そのなかで乳幼児期の読書活動を推進するための各種おはなし会を開催しました。
- ・また、市の母子保健を担当する部署と連携し、すべての子どもに人生最初の本との出会いを作るためのブックスタート事業を実施し、2021年度においては1,798組の親子に絵本を届けました。
- ・成果指標である、乳幼児期対応講座等とおはなし会の延べ参加者数は、2020年度と比べて大きく増加しており、回復の傾向がみられています。



子育て応援！オンライン講座



夏のとくべつおはなし会

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○乳幼児期に対応する講座等の開催事業数	事業	46	35	23	21			40
○おはなし会の開催回数	回	282	270	130	173			282

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者数	人	6,927	10,818	1,934	3,746			7,646
○図書館や保育園などのおはなし会の延べ参加者数	人	3,103	5,330	1,739	2,979			3,420

## 今後の課題

- ・オンライン講座は自宅で受講できるという安心感や、小さな子どもがいても参加できるというメリットがありますが、一方でオンラインだと子どもが集中して参加してくれないため、対面での講座を望む方が増えている傾向にあります。
- ・今後は、対面講座の内容をそのままオンラインで提供するのではなく、オンラインだからこそできる内容を企画・検討していくことが課題です。
- ・また、オンライン講座はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、パソコンやタブレットなどを所有していない方に配慮した方法を検討していく必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染対策のため、ブックスタートの会場等、読み聞かせができなくなっている場があり、保護者や子どもが絵本と出会う機会が減っている状況があることから、電子図書館の整備等、過去とは異なるアプローチで本との出会いを提供し、本の面白さや、読書の大切さを伝えていく取り組みが必要です。

## 2 青少年期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課、こども・青少年課）

【関連する施策の内容】②青少年期に対応する学習機会を提供します。

- ・青少年期におけるさまざまな問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を提供しました。また、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・学習センターでは、青少年期の子どもを持つ保護者のための児童家庭教育学級（セミナー）を実施したほか、青少年期の児童・生徒を対象に体験型の講座を実施しました。
- ・生涯学習センターで開催した児童家庭教育学級では、「ことばのチカラを上げる親トレ」と題した講座を開催しました。
- ・受講後のアンケートでは「自分の行動を振り返るきっかけとなった。本日から実行していきたいと思う」、「他の方の悩みなども聞けて、自分だけではないと心が軽くなった」など、これまでの自身の行動を振り返り、今回学んだことを実行する意欲が生まれ、また他の保護者の悩みを聞くことで孤独感、不安感の払拭につながることができました。
- ・渋谷学習センターで開催した「子ども科学講座～出てこい！未来のエジソン～」は、実験コースと工作コース（ものづくり）に分け、児童が科学に興味を持つ内容とし、学年や個々のレベルにあった科学的な思考や創造力につながる体験の場を提供しました。
- ・工作コースでは「分光シート万華鏡を作ろう」と題し、紙コップを使用して万華鏡を作成し、受講後のアンケートでは、「とても楽しかった。家でもできるなら、家族とやりたい」、「色々なじっけんや工作ができて、楽しかった」など、学習活動をとおして家族とのコミュニケーションのきっかけづくりや継続的学習への意欲、工作技術の向上に寄与しました。



児童家庭教育学級  
ことばのチカラを上げる親トレ



子ども科学講座  
～出てこい！未来のエジソン～



- ・図書館では、2020年度は全て中止になった図書館見学や図書館員の仕事を体験する一日図書館員などの事業を一部再開し、図書館をより身近に感じてもらえるような取り組みを行うことができました。
- ・2021年度のユースクラブは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、予定していた活動を縮小または中止しましたが、青少年が企画から運営まで体験できる機会を提供することで、自主性や主体性を育み、さらにはグループでの活動を通して協調性や社会性を身に着けさせる取り組みを行いました。
- ・こども体験事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため事業を中止しました。
- ・成果指標である、青少年期対応講座等の延べ参加者数とユースクラブの活動日数は、2020年度と比べて増加に転じたものの、コロナ禍前の水準にまで戻すのは今しばらくかかると考えられます。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○青少年期に対応する講座等の開催事業数	事業	28	21	10	13			28
●ユースクラブが知識や技術を習得するための会議や研修の実施日数	日	26	22	11	17			27
●こども体験事業の活動報告パネルの展示日数	日	151	288	0	0			151

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○青少年期に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,330	1,070	342	416			1,466
●ユースクラブの活動日数	日	90	79	22	39			92
●こども体験事業参加者数	人	29	25	0	0			30

担当: ○図書・学び交流課、●こども・青少年課

## 今後の課題

- ・費用対効果を考えると、講座1回あたりの参加者が多い方が望ましいですが、対面で実施することによる感染リスクを減少させるには、定員を絞る必要があるため、オンライン講座を活用するなどして、参加者を増やしていくことが今後の課題です。
- ・オンライン講座の受講者はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、最寄りのコミセンや学習センターにサテライト会場を用意するなど、パソコンやタブレットなどを所有していない方へ配慮した実施方法を検討する必要があります。

### 3 成人期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】③成人期に対応する学習機会を提供します。

- ・家庭・地域・職場で活用できる、自己啓発・能力開発等の講座を実施しました。
- ・生涯学習センターで開催した「オンライン会議ツールを使いこなそう！」では、全3回に亘る講座を実施しました。
- ・1回目は対面でZoomに参加する方法を学び、2回目は自宅からオンラインで各自参加するという、対面とオンラインのハイブリッド型の講座でした。3回目はZoomのホスト役になる方法を学びました。
- ・受講者からは「各自で所有する情報通信機器を用いて参加できたので、個々のPC環境によって操作方法の違いがわかり良かった」、「とても楽しい講座でした。早速Zoomを使ってみたいと思います」など、オンラインを用いたコロナ禍での新たな学習方法の習得、オンライン上ではありましたが、人や地域とのつながりを促す機会となりました。
- ・成果指標である、成人期対応講座等の延べ参加者数は、2020年度と比べて増加しており、回復の傾向がみられています。



オンライン会議ツールを使いこなそう！

#### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○成人期に対応する講座等の開催事業数	事業	16	12	6	7			15

#### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○成人期に対応する講座等の延べ参加者数	人	613	594	245	325			674

#### 今後の課題

- ・費用対効果を考えると、講座1回あたりの参加者が多い方が望ましいですが、対面で実施することによる感染リスクを減少させるには、定員を絞る必要があるため、オンライン講座を活用するなどして、参加者を増やしていくことが今後の課題です。
- ・オンライン講座の受講者はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、最寄りのコミセンや学習センターにサテライト会場を用意するなど、パソコンやタブレットなどを所有していない方へ配慮した実施方法を検討する必要があります。

#### 4 高齢期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】④高齢期に対応する学習機会を提供します。

- ・高齢期においても元気に、生きがいづくりや健康づくりに取り組むための講座を実施しました。
- ・生涯学習センターで開催された「頭も身体も弱らせない！『今だからこそ』のフレイル予防」では、フレイル予防についての知識の習得からはじめ、実際にワークショップを通して、フレイル予防に結び付くとされる社会参加・運動・食事・口腔の4つのケア方法について全3回に亘り学ぶ機会を提供しました。
- ・受講後のアンケートでは、「今日の話は、あまり体験したことがないものだったので、興味深かった」、「継続して日常生活の中に取り入れて、フレイル予防に努めて、健康寿命を伸ばしていきたいと思います」など新たな学びに挑戦する意欲や継続的な学習を促す機会となりました。
- ・成果指標である、高齢期対応講座等の延べ参加者数は、2020年度よりも減少する結果となりました。
- ・これは、特措法に基づく緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の発出に伴い講座を中止したことや、高齢期を対象とした講座ではオンライン講座を増やすことが難しいことが影響したと思われます。

#### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○高齢期に対応する講座等の開催事業数	事業	10	11	10	8			11

#### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○高齢期に対応する講座等の延べ参加者数	人	693	1,069	479	371			762

#### 今後の課題

- ・オンライン講座の実施はネットワーク環境が整った人のみ受講が可能であるため、特に高齢期の講座についてはデジタルデバイドの解消が大きな課題です。
- ・最寄りのコミセンや学習センターにサテライト会場を用意するなど、パソコンやタブレットなどを所有していない方へ配慮した実施方法を検討する必要があります。

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

[達成度]

B

### 個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えることが求められています。
- ・急変する社会状況や生活環境に対応した学習機会の提供も必要です。

#### 【めざす姿】

自らの興味や社会状況に合った学習をすることにより、  
心や生活が充実した市民が増えている。

#### 【施策の内容】

- ① 市民ニーズに応える学習機会を提供します。
  - ・市民の学習ニーズを的確に把握し、それに対応した学習機会を提供します。
  - ・受講者アンケートなどにより、変化する学習ニーズの把握に努めます。
  - ・指定管理者のもつ民間ノウハウを活用し、充実した学習機会を提供します。
- ② 社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。
  - ・地球環境の保全、国際理解、男女共同参画社会の実現、情報化社会への対応など、市民が社会生活を営む上で理解し、身につけておくことが望まれる課題についての学習機会を提供します。

## 個別目標1—(3)を達成するための主な取組

### 1 受講者アンケートの実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民ニーズに応える学習機会を提供します。

- ・学習センターで実施した各講座においては、オンライン講座を含め、講座終了後にアンケートを実施し、企画意図に合わせた評価指標を設け、実施効果を測りました。
- ・毎年、各学習センターでは、様々なジャンルの講座を開催していますが、成果指標であるアンケートによる参加者の満足度については、前年同様、非常に高い水準を維持することができました。

#### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケート調査の実施回数	回	204	160	110	117			150

#### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケートによる参加者の満足度	%	94	98	98	98			94

## 今後の課題

- アンケートによる参加者の満足度を高い水準で維持できるよう、講座に関するアンケート調査のほか、どのような分野の学びに興味を持っているかなども把握し、引き続き、多様な市民ニーズを捉えた事業展開を図っていく必要があります。

## 2 現代的課題対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②社会状況に対応した「現代的課題」に関する学習機会を提供します。

- 多文化共生や防災、環境など、様々な現代的課題をテーマとした学習機会の提供に努めました。
- 2021年度は、初めての試みとして渋谷学習センターにて、「リアル避難場所体験〈水害編〉」を開催しました。
- 渋谷学習センターは、台風や大雨などの災害時に緊急避難場所となる施設であり、実際に2019年度の台風時には夜間に避難場所として開設されました。
- 同講座は、実際の避難場所を講座会場とし、避難場所の開設・運営を担う危機管理課をはじめとする関係部署による座学・ワークショップを行い、避難方法や避難場所の感染症対策などの知識を市民に習得してもらうことを目的に開催しました。
- 受講者からは、「普段、非常持ち出し品を用意していないので、これを機会に準備しておくべきと思った」、「皆の色々な意見を聞けたので良かった。地域の人とも話したい」などの感想があり、また、避難場所を開設する市の部署にとっては実地訓練を兼ねることができたため、大変有意義な講座となりました。
- 成果指標である、現代的課題対応講座等の延べ参加者数は、最終目標値をも大幅に超える数値となりました。
- これは、情報技術を身近に感じてもらう機会として、参加者自身が所有するスマホを用いてAR技術を使用した非接触スタンプラリーを、市内の学習センター・図書館合わせて7館で実施し、200名を超える多くの市民に参加していただいたことなどが主な理由です。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○現代的課題に対応する講座等の開催事業数	事業	39	29	18	28			38

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○現代的課題に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,615	1,992	646	2,008			1,780

## 今後の課題

- コロナ禍において、外出や交流が制限される状況が続いていますが、人と人をつなぎ、市民自らが地域の課題解決に向け行動する力をつけるきっかけとなるよう、社会状況に対応した必要課題としての学習機会の提供をするため、引き続き5館でテーマを十分に精査したうえで事業展開していく必要があります。

個別目標1—(3) 市民のニーズや現代的課題に合わせた学習機会の提供

[達成度]

A



## 個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

- ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送れるよう、日常的にスポーツに親しむことができる環境や機会を提供することが必要です。
- ・また、市民の健康に対する意識の高まりに応じた健康に関する学習機会の提供も求められます。

### 【めざす姿】

日常的にスポーツに親しみ、健康的に暮らす市民が増えている。

### 【施策の内容】

- ① スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。
  - ・市民の自発的なスポーツ活動を奨励する教室やイベントなど、スポーツに関する様々な学習機会を提供します。
  - ・スポーツの大会や試合などの観戦の機会を提供し、市民のスポーツへの興味、関心を高め、健康への意識啓発を図ります。
  - ・スポーツを通じた健康づくり、地域の絆づくり等を推進させ、老若男女を問わず市民の誰もが生涯にわたって豊かな活動を送れるようにします。
- ② 健康維持・増進につながる学習機会を提供します。
  - ・健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながるような健康維持、増進に関する学習機会を提供します。
  - ・食事や運動だけでなく、市民ニーズに応じた健康に関する様々なテーマによる学習機会を提供します。

## 個別目標1—(4)を達成するための主な取組

### 1 スポーツ教室等の開催（市長部局所管 担当:スポーツ課）

【関連する施策の内容】①スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。

- ・スポーツ教室については、東京2020オリンピック・パラリンピックが2021年度に延期となったこともあり、2020年度と同様に、オリパラ等に関連する注目度が高い教室を開催しました。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となったスポーツ教室が多く、計画時より実績が減少しましたが、今後も安全に配慮しながら、魅力のある教室を展開します。
- ・市民のスポーツ観戦機会の提供については、トップスポーツ観戦デーとして2020年度に続き、「第54回日本女子ソフトボールリーグ後期開幕節」を大和スタジアムに誘致しました。女子ソフトボールは、東京2020オリンピックで金メダルを獲得後初の公式戦だったこともあり、多くの来場者が見込まれましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により無観客開催として、オンライン中継での開催となりました。



トップスポーツ観戦デー

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ教室 開催延べ教室数	教室	14	16	6	4			14
◇スポーツ観戦 機会の提供数	回	12	21	7	7			12

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ教室 延べ参加者数	人	1,062	722	331	206			1,196
◇年1回以上直接 会場でスポーツ を観戦している 人の割合 ※1	%	34.3	—	—	14.9			37.3

※1 年1回以上直接会場でスポーツを観戦している人の割合については、大和市スポーツ推進計画において実績を把握する年度(2021年度実施)が決められていることから2019～2020年度の実績はありません。

## 今後の課題

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックで注目度が高まった競技を実施種目に反映させていく等、今後もスポーツへの興味・関心を醸成できるような、魅力のある事業を継続することが求められます。
- ・総合型スポーツクラブや各種スポーツ団体と連携を図り、スポーツが続けられる環境を整える取り組みが必要です。
- ・コロナ禍において、不特定多数の方が集まる大規模なスポーツイベントの開催については、感染防止対策を充分に行う必要があります。

## 2 健康維持・増進に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②健康維持・増進につながる学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながる機会を提供しました。
- ・渋谷学習センターで開催した「かんたん！自宅で始める筋力トレーニング」は、30代～80代までの幅広い年齢層の方が受講しました。
- ・実技が多めの少しハードなプログラム内容で、感染症対策のためマスクを着用しての実施でしたが、受講者は楽しそうに積極的にチャレンジしていました。
- ・受講後のアンケートでは「スポーツクラブに通っていましたが皆に合わせるのがきつくてやめました。今日教えてもらったことをマイペースで続けるととても良いと思いました」、「とてもわかりやすく、自宅でもこれからやってみたいと思いました」など日常の継続的な運動習慣につながる回答が多くありました。
- ・運動以外にも、つきみ野学習センターでは「コロナに打ち勝つ！温泉で健康維持」を開催し、予防医学の1つとして温泉を利用した健康維持の仕方を学ぶ機会を提供しました。
- ・コロナ禍で現地に行きづらいことを配慮し、観光要素として温泉発祥のお寺などを動画で紹介するなど、参加者全員から大変好評いただいた講座となりました。
- ・こうした取組の実施により、成果指標である、健康に関する講座等の延べ参加者数は、前年度を超える数値となりました。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康に関する講座等の開催事業数	事業	7	6	5	6			10

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○健康に関する講座等の延べ参加者数	人	125	267	304	311			135

## 今後の課題

- ・コロナ禍における健康維持・増進に関する講座等の開催については、換気の問題や距離を取って接触を無くすなど、感染対策上クリアすべき課題が多くあります。
- ・現在対面の講座では運動時でもマスクの着用が必要なため、自宅からオンラインで参加できる講座を企画・検討していくことも必要と考えます。

個別目標1—(4) スポーツや健康に関する学習機会の提供

[達成度]

**B**

## 個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

- ・心豊かで潤いある生活を送るには、文化や芸術に親しむことができる機会の提供が大切です。
- ・地域の歴史や伝統、文化を知ることは、郷土意識の醸成にも寄与します。

### 【めざす姿】

芸術や文化に関する学習機会や、歴史や伝統が受け継がれていくための学習活動が展開され、文化芸術に親しむ市民が増えている。

### 【施策の内容】

- ① 芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
  - ・音楽や演劇の発表会、芸術鑑賞の機会、芸術文化に関する講座など、市民が芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
  - ・芸術活動や文化活動を行う学習団体との情報共有及び連携を進め、学習団体の活性化、文化芸術活動の推進を図ります。
- ② 歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。
  - ・市民が伝統文化を知る機会の充実を図り、歴史や文化が後世に継承されていくための学習機会を提供します。
  - ・郷土資料や文化財を収集して保護し、調査研究を進めるとともに、展示や刊行物の発行といった形での学習機会も提供します。

## 個別目標1—(5)を達成するための主な取組

### 1 芸術文化に関する講座等の開催（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。

- ・各学習センターでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とする公演もありましたが、舞台にビニールシートを下げ、客席との距離を広くとることや、舞台上の演者間にアクリルパーテーションを設置するなどの感染対策に努めながら、ミニコンサート、演劇ワークショップ、本の朗読会、ミニ枯山水づくり、中国茶紀行など、芸術・文化に関する活動の充実を図るための講座や公演を実施しました。
- ・成果指標である、芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数は、最終目標値をも大幅に超える数値となりました。
- ・これは、実技を通じて水墨画の基礎について学ぶ「水墨画への誘い」、クラシックの鑑賞を通じて歴史や作曲家について学ぶ「名演で味わうクラシック音楽史ピュアオーディオで堪能するクラシック」の連続講座を各回異なる作風、作曲家の紹介をしながら実施し、多くの方にご参加いただいたことが主な理由です。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○芸術・文化に関する講座等の開催事業数	事業	3	3	7	7			8

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数	人	263	250	254	464			288

## 今後の課題

- ・つきみ野、桜丘、渋谷学習センターはギャラリーを有していますが、講座等で十分に活用できていない状況にあるため、特別展の企画等を検討することにより、成果をさらに高めることができると考えます。

## 2 歴史企画展等の開催（市長部局所管 担当:文化振興課）

【関連する施策の内容】②歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。

- ・つる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園の歴史文化3施設は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部が中止となったものの、前年度に比して事業数は増加しました。
- ・また、郷土資料や文化財の収集・保存・調査研究については継続的に実施し、成果は企画展示・講座・刊行物の発行という形で還元し、市民に学習機会を提供しました。
- ・つる舞の里歴史資料館では、企画展「金子コレクション 幕末・明治の輸出工芸品」と関連講座を開催しました。
- ・また、企画コーナー展示として昭和の生活で使われた民具を展示した「昭和の暮らし」、秋季ミニ企画展「市域と江戸時代の旅展」、洋画家・田中清隆氏の作品展「田中清隆展」を開催しました。
- ・つる舞の里歴史資料館・下鶴間ふるさと館両館では、年中行事の展示を市民サークルの協力を得て実施しており、市民の活動成果の発表の場ともなっています。
- ・郷土民家園では、旧小川家住宅の茅葺屋根葺き替えに合わせて、講座と写真展を開催しました。また、市域の古建築をテーマに専門の研究者を講師に招いた文化財愛護講座「大和市の建築～実地見学会」を開催しました。
- ・これらの取組を実施したことにより、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた、歴史文化施設の利用者数を増加させることができました。



つる舞の里歴史資料館企画展

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020 ※1	2021	2022	2023	
◎つる舞の里歴史資料館企画展の開催回数	回	3	3	4	6			3
◎歴史文化施設の開催事業数	事業	65	65	26	45			65

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。



## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020 ※1	2021	2022	2023	
◎つる舞の里歴史資料館で開催する企画展(3館合同含む)の来館者数	人	1,740	1,804	2,150	2,831			2,400
◎歴史文化施設の利用者数	人	54,443	47,760	37,516	50,280			61,200

※1 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2020年4月1日(水)～6月30日(火)まで臨時休館。

## 今後の課題

- ・今後も、感染症予防に配慮しながら、利用者数の回復・増加を図っていくために、魅力的な事業の実施に努めていく必要があります。

個別目標1—(5) 芸術・文化・歴史に関する学習機会の提供

[達成度]

A

## 【施策目標1に対する総合評価】

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します	【総合評価】 B
------------------------------	----------

- ・市民の居場所の提供については、新型コロナウイルス感染症の予防対策を全施設で徹底し、『安心して学習できる場』づくりに継続的に取り組んできたことが、来館者数の実績に表れたと考えます。
- ・また、各種の講座や教室については、従来の対面によるものに加え、オンライン等を活用するなど、コロナ禍でもできることを主催者それぞれが考え、実践してきたことで、講座に対する受講者の満足度が最終目標値をも上回る結果を得ることができたと考えます。
- ・新型コロナの影響は依然として大きく、実績がコロナ前の水準に回復したとは言えませんが、施策目標1に構成される2021年度の取組は、様々な制限の中で実施してきたことを考慮すると、概ね期待された結果が得ることができたと判断し、総合評価をBとしました。

## 【施策目標1の目標達成に向けた施策の展開方針】

### 【図書・学び交流課】

#### ○健康都市大学

- ・「市民でつくる健康学部」については、引き続き、市民の学びが継続されるよう魅力的な講座の開催に努めるとともに、感染状況を鑑みながら、より多くの方が学びの場に参加できる環境づくりに取り組みます。
- ・対象を絞らず出入り自由なイベント「月イチ学園祭」を新たにスタートすることで、様々な学びをきっかけとし、自宅にこもりがちな市民の外出意欲を促進させ、また、地域における多様な交流や仲間づくりの機会を創出していきます。

#### ○生涯学習センター・図書館

- ・利用者数の増加と、感染防止対策を両立させながら、新しい生活様式に則した管理運営の在り方を検討していきます。
- ・コロナ禍において、市民の継続的な学習機会が確保できるよう、デジタルディバイドの解消を目的とした取組を進めるとともに、従来の対面による講座にとらわれない様々な提供方法を指定管理者とともに検討します。

### 【こども・青少年課】

- ・ユースクラブでは、感染防止対策を講じながら、参加者自らが仲間とともに活動内容の企画・立案、そして、実践・反省・改善までの過程を通して、協調性、社会性等を身に付けられるよう、体験機会の確保に努めていきます。
- ・こども体験事業については、コロナ禍において感染防止対策を十分にとり、東日本大震災の被災地訪問、事前事後研修や活動発表を企画、運営するなど、青少年の体験機会の確保に努めていきます。

### 【スポーツ課】

- ・スポーツを「みる」ことを「する」ことへの動機づけとし、健康の保持増進へとつなぐ取組みを継続します。
- ・コロナ禍において、これまで多くのスポーツイベントが中止となりましたが、今後は感染防止対策を講じながら、活動が再開できる手段・方法を検討します。

### 【文化振興課】

- ・感染症予防に配慮した新たな企画の立案、情報発信方法の工夫、多彩な事業の実施による施設の魅力向上等に取り組み、市民の学習機会の充実に努めていきます。

## 施策目標2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

仲間や友人などと共に学ぶことによって、人と人とのつながりや交流が生まれます。学習活動や学習成果の発表を通じた“学びによるつながり”は、地域における交流や連帯感を深め、地域のコミュニティづくりにつながることを期待されます。

### 個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

- ・学習に関する情報提供は、これから学習活動を始めようとする人たちにとっては大きな助けとなります。
- ・誰もが気兼ねなく、学習活動に取り組むことができる支援も必要です。

#### 【めざす姿】

学習に関する情報や相談体制が充実し、市民の学習活動が活発になる。

#### 【施策の内容】

- ① 学習に関する情報を効果的に提供します。
  - ・必要としている人に必要とされる情報が届き、学習活動へとつながるよう、体系的かつ効果的な情報伝達をしていきます。
  - ・講座の内容や募集方法、施設の場所や利用方法、催事、人材及び団体情報など、学習に関する様々な情報を、各種情報媒体を活用し提供していきます。
  - ・関係施設に関する情報や、民間情報についても積極的に提供するなど、情報収集及び整理を行い、提供する機能を充実させます。
  - ・図書館において、幅広い分野の資料を収集するとともに、レファレンスサービスを充実することで、市民の読書活動や学習活動を支援します。
- ② 学習相談による充実した支援を行います。
  - ・学習希望者の様々なニーズに対応できるよう、適切かつ的確な学習相談による支援を行います。
  - ・学習団体に対し、学習発表等の企画立案やPR方法などの助言及び支援を行い、市民交流の促進を図ります。

## 個別目標2ー(1)を達成するための主な取組

### 1 レファレンスサービスの提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習に関する情報を効果的に提供します。

- ・図書館におけるレファレンスサービスの提供は、市民の自主的な学習活動を支援する図書館の基幹サービスのひとつであり、利用者の満足度向上にも直結します。
- ・成果指標である、レファレンスの受付件数と市民一人あたりの図書の貸出冊数の2021年度の数値は、いずれも最終目標値に到達しており、新型コロナウイルスの感染拡大前の水準に戻りました。
- ・また、リクエストについては、2021年度の受付件数が323,914件となり、前年度の件数と比較して43,730件増加し、市民の学びたいという気持ちに応えました。

#### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○図書館の蔵書数	冊	586,553	617,823	626,380	638,609			686,000
○レファレンスサービスの広報回数	回	4	2	2	2			8

#### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○市民一人あたりの図書の貸出冊数	冊	5.39	5.83	4.42	5.85			5.85
○レファレンス受付件数	件	295	456	361	405			302

#### 今後の課題

- ・図書館におけるレファレンスサービスの利用数は図書館機能を計る重要な指標のひとつであり、適切な感染症対策を施したうえで、今後も利用者数の増加に努める必要があります。

## 2 学習情報の提供・学習相談の実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②学習相談による充実した支援を行います。

- ・学習情報をコンパクトにまとめた「健康都市やまとMANABI支援ガイド」や「広報やまと」、市のホームページなどを活用し、継続的に学習情報を提供しました。
- ・また、市民の多様なニーズを学習活動に結びつけていくために、窓口・電話での学習相談を適宜行い、その件数は、2021年度においても最終目標値を上回る水準となりました。
- ・コロナ禍における各学習センターの利用方法等について、HPのほか、電話や窓口において、学習団体へ細かく説明を行い、継続的な活動に向けた支援を行いました。



健康都市やまと  
MANABI支援ガイド

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習相談員数	人	※1 32	36	34	28			33

※1 計画策定時（2017年）の学習相談員の数は、生涯学習センター（指定管理者）の職員と地区館（市職員）を合算。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習に関する相談件数	件	3,382	4,454	6,236	4,991			3,962

### 今後の課題

- ・インターネットの普及により個人で多くの情報を得ることが容易になっていますが、ペーパーメディアで日ごろ生涯学習に関する情報を取得している層もいるため、ターゲットに応じた、効果的な情報提供の手法を検討していく必要があります。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

[達成度]

A



## 個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

- ・個人や団体が学習により得た知識や経験を、地域や他の学習希望者と共有することは、社会に有益であるとともに、本人にとっても大変意義のあることです。
- ・生涯学習を推進していく上では、学習者の支援とともに、学習支援者となる人材や団体を育成し活用することが重要です。

### 【めざす姿】

学びを支える担い手づくりが進められ、市民同士で教え、学び合うシステムの構築が進んでいる。

### 【施策の内容】

- ① 学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。
  - ・市民の学習活動が円滑に行われるよう学習者や学習支援者、学習団体を支援するとともに、学習成果を市民の生涯学習推進に活用します。
  - ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、継続して団体活動が行えるよう相談や支援を進めます。
  - ・子どもの読書活動に関わるボランティアの育成を図ります。

## 個別目標2—(2)を達成するための主な取組

### 1 団体利用の登録説明会の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「団体利用の登録説明会」は、これまで各学習センターで実施されてきた「利用者懇談会」のような既存の利用団体に対する利用者説明会ではなく、これまで学習センターを利用したことのない市民や団体を対象に、施設見学と利用登録に関する説明会です。
- ・2021年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため事業を中止しました。
- ・成果指標である、学習団体の登録数は、前年度と比較して約100団体増加しました。
- ・これは、市内の感染状況や施設の安全対策等から、活動を再開できると判断した団体が多いたことが理由と思われます。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○団体利用の登録説明会の開催回数	回	-	1	0	0			5

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体の登録数	団体	1,761	1,991	1,638	1,732			1,849

## 今後の課題

- ・新規団体の設立を促すため、単に個人学習を目的としたものだけでなく、講座に参加した他の学習者とのつながりをつくり、グループ活動を生み出すような学習プログラムの立案を行っていく必要があります。
- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、引き続き、新規会員獲得のための支援を行っていく必要があります。

## 2 読み聞かせボランティア養成講座の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「こども読書わくわくプラン」に基づき、様々な取り組みを進めるうえで、読み聞かせボランティアの存在は大変重要な人材であることから、ボランティアの育成や、その活動場所を確保する取り組みを進めました。
- ・読み聞かせボランティアを養成する講座については、それぞれの経験や技術に応じた内容とするなど、初心者から経験者まで幅広く参加できる体制を整えていましたが、2020年度と同様に新型コロナウイルスの影響により一部の講座が中止となり、結果、2021年度は年間8回の開催、113人の参加者となりました。
- ・また、ボランティアの活躍の場の確保のため、大和市立図書館内でボランティアによるおはなし会を年40回実施しました。



読み聞かせボランティア  
養成講座（入門編）

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「読み聞かせボランティア養成講座」の開催回数	回	11	9	8	8			11

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「読み聞かせボランティア養成講座」等の延べ参加者数	人	127	175	124	113			300

## 今後の課題

- ・ブックスタート会場における読み聞かせの中止や、学校における読み聞かせ活動の自粛など、読み聞かせボランティアの活躍の場が減っていることから、ボランティアのモチベーションの維持向上に繋がる方策を検討していくことが求められます。

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

[達成度]

B

## 個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

- ・学習による自己の充足だけでなく、学習活動を通じて人と人とのつながり、市民間の交流を促し、地域コミュニティの形成につなげていく必要があります。

### 【めざす姿】

学習活動や学習成果の発表を通して、地域コミュニティが生まれている。

### 【施策の内容】

- ① 市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。
  - ・日頃の学習活動、学習成果を発表できる場を設けるとともに、参加者への支援や内外への周知を積極的に行い、学習による市民相互交流や地域コミュニティの形成を促します。
- ② 市民の交流機会を創出する学習団体を支援します。
  - ・学習活動や学習成果の発表などにより、市民交流の創出を推進する学習団体を支援します。

## 個別目標2—(3)を達成するための主な取組

### 1 学習センターまつりの開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・2021年度の学習センターまつりは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため5館のうち、2館（つきみ野学習センター、ポラリス）が中止となりましたが、ともに代替企画を実施しました。
- ・つきみ野学習センターでは、前年度に引き続き「つきみ野博覧会」を実施し、利用団体による展示会と動画発表を行いました。
- ・また、ポラリスでは、まつりに参加を予定していた団体の紹介や、各団体のメンバーのコロナ禍での「わたしの家での過ごし方」を掲載した冊子「第4回ポラリスまつり団体紹介～誌上ポラリスまつり～」を発行し、紙面上での交流を図りました。
- ・まつりを実施した学習センター3館では、いずれも例年より参加団体数が減少したものの、感染対策に配慮しながら、利用者同士の交流を図りました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習センターまつりの回数	回	5	5	3	5			5

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習センターまつり参加団体数	団体	170	159	80	112			180

## 今後の課題

- 各学習センター活動団体による学習活動や学習成果の発表の場として「学習センターまつり」は、継続的に実施されていますが、同じ学習センター内での交流に留まっています。
- 例えば、つきみ野学習センターで活動する団体を、渋谷学習センターまつりに招待して参加してもらうなど、他団体との交流を活発にし、新たなつながりを生み出すための取組等を充実していくことも必要と考えます。

## 2 交流機会創出のための支援（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- 市民の交流機会を創出するために、各学習団体が、まなびの輪支援事業で開催する市民対象の体験講座や自主事業の周知・広報活動の支援を行いました。
- まなびの輪支援事業では、各団体の取り組みに参加してもらうだけでなく、団体の取り組みに興味を持ってもらい、新規会員を取り込むことも目的の1つであるため、各団体で実施回数や内容を工夫しながら、地域住民同士の交流や、地域活動の推進が行われています。
- 学習団体の活動再開により、活動指標にある学習団体による講座等の広報回数、成果指標の学習団体による講座等の参加者数は上昇に転じたものの、コロナ前の水準にまで戻すのは長い期間が必要になると思われます。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体による講座等の広報回数	回	-	948	223	338			800
○まなびの輪支援事業説明会の実施回数	回	5	3	4	5			5

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○学習団体による講座等参加者数	人	3,218	2,898	728	972			3,550
○学習団体の活動支援件数	件	99	62	27	24			104

## 今後の課題

- コロナ禍の長期化により、学習団体の地域への学習成果の還元が停滞している中において、活動のモチベーションややる気をいかに維持、向上していくかが課題です。

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

[達成度]

C

## [施策目標2に対する総合評価]

施策目標2 学習を通じて人と人とのつながり、交流の輪を広げます

[総合評価]

**B**

- ・学習情報の提供や学習相談については、団体の活動内容をきめ細かく説明するなど、学習を通じた人と人との交流の輪を広げるきっかけになったと考えます。
- ・学習団体による主体的な講座等の企画運営、学習成果の地域還元については、思うように進んでいない部分があるものの、コロナ禍の中においても実施できた講座、イベントは、施策目標2が目指す、地域における交流や連帯感の醸成に一定の効果はあったと判断し、施策目標2の総合評価としてはBとしました。

## [施策目標2の目標達成に向けた施策の展開方針]

### 【図書・学び交流課】

#### ○学習センター

- ・今後も学習センターまつりが継続的に行われ、参加団体数が減少することの無いよう、実行委員会のモチベーションの維持、向上を図るためのフォローや、中止となった場合の代替事業の企画などの支援を行います。
- ・学習団体が行う新規会員獲得のための広報周知活動の支援を継続して実施していきます。

#### ○図書館

- ・ボランティア養成講座を引き続き行い、読み聞かせボランティアの育成に力を注ぐとともに、感染防止対策を実施したおはなし会や、ボランティア団体同士の情報交換などを通じて、ボランティアの活躍の場を広げていきます。



### 施策目標3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります

施策目標1・2を達成するためには、学習のための環境づくりや仕組みづくりが欠かせません。そのため、施設の適切な維持管理や機能の充実、生涯学習を支援・推進する体制の充実、関係機関との連携推進を図る必要があります。

#### 個別目標3-1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

- ・生涯学習を推進するためには、安全で快適な学習環境の提供とともに、それを維持していくことが大切です。
- ・市民の学習ニーズの多様化にも、対応していけるような施設の維持及び更新が必要です。

##### 【めざす姿】

市民が快適な環境で学習している。

##### 【施策の内容】

- ① 学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
  - ・安全で快適な学習環境を提供するため、学習施設の適切な維持管理を行うとともに、様々なニーズに対応するための機能の充実を図ります。
  - ・学習センター全館を指定管理者による管理運営とし、民間のノウハウを活用した学習機会の提供や効率的な管理運営を図ります。

### 個別目標3-1)を達成するための主な取組

#### 1 学習環境の向上に関する取組 (市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

【関連する施策の内容】①学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。

- ・つきみ野学習センターは建物及び各設備の老朽化が進んでいたことから、今後も学習施設として安全かつ快適にご利用いただけるよう、2021年12月末から2023年1月(予定)まで休館し、施設の改修工事を行っています。
- ・改修工事後は、各部屋へ電源やLANの追加、オーディオ機器の入れ替えなど、学習するための機能も改修前と比較して充実する予定です。
- ・利用者懇談会においては、社会教育関係団体等から利用方法について出された意見を踏まえ、適宜サービスの見直しを行い、学習環境の向上に努めました。
- ・成果指標である、アンケートによる利用者の満足度については、前年度同様、最終目標値を上回る結果となりました。



つきみ野学習センター  
(改修工事前)



つきみ野学習センター  
(改修工事中)

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○利用者懇談会の実施回数	回	5	※1 2	4	5			10

※1 2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学習センター3館で各1回中止となった。

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○アンケートによる利用者の満足度	%	—	81	83	84			80

## 今後の課題

- ・現状の利用者満足度の維持・向上に努めるため、利用者の様々なニーズに応えるとともに、コロナ禍においては、感染症対策を含む安全面、衛生面などの点で、学習環境の向上を図っていく必要があります。

個別目標3—(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

[達成度]

**A**

### 個別目標3—(2) 支援・推進体制の充実

- ・学習活動の充実を図る上で、行政各部門の専門性を活用することも、有効な手段となります。
- ・また、行政の施策等を効果的かつ効率的に進めていくには、有識者の意見等を参考にしながら、有効な方策等を検討することも必要です。

#### 【めざす姿】

行政の知識や経験が市民の学習活動に活かされているとともに、生涯学習を進めていく方策が検討されている。

#### 【施策の内容】

- ① 行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。
  - ・行政の専門知識を市民の学習の場で活用し、市民の学習活動を支援します。
  - ・より効果的かつ効率的な学習支援を図るため、行政各部門と緊密に連携するとともに市民への幅広い情報提供を行います。
- ② 学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。
  - ・学識経験者が参画する学びに関する各種会議を開催し、生涯学習推進に向けた方策の検討等を行います。
  - ・各種会議の審議等を通じて、行政の施策等を適正かつ効率的に実施します。

## 個別目標3—(2)を達成するための主な取組

### 1 「どこでも講座」の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。

- ・開かれた市政の推進及び市民の市制運営への意識を醸成し、生涯学習によるまちづくりの振興を図るため、研修会や学習の場に専門的な知識を持つ市役所各課の職員を講師として派遣する、生涯学習出前講座「どこでも講座」を実施しました。
- ・成果指標のどこでも講座の延べ参加者数は上昇に転じたものの、コロナ禍前の水準にまで戻すのは今しばらくかかると思われます。

#### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「どこでも講座」の開催事業数	事業	88	88	88	91		88	

#### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○「どこでも講座」の延べ参加者数	人	452	310	58	102		630	

## 今後の課題

- ・どこでも講座のメニューを増やすことも魅力的な講座の運営には必要ですが、講義内容に関心を持ってもらうための取り組みとともに、受講者を増やすための周知方法についても、現状のツール（チラシ作成やHP）以外の方法も検討していく必要があります。

## 2 審議会等の運営（市長部局所管 担当:スポーツ課）（教育委員会所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②学識経験者とともに学習活動を推進する方策の検討を行います。

- ・社会教育委員会議では、平成27年に行われた社会教育委員と教育委員との情報交換会をきっかけに、家庭教育支援講座の提案がなされ、社会教育主事の企画を元に社会教育委員会議で検討し、地域に出るアウトリーチ型の家庭教育支援講座を実施してきました。
- ・令和3年度は大和ゆりの森を会場に、家庭教育に関する親と子の関わり合いについて講義後、子どもの自然体験に親が関わることの必要性について、屋外での自然体験学習を行いました。
- ・受講者からは、概ね満足の回答を得ることができ、また、「子どもと一緒に楽しく遊べそうだった」との意見からも、自らの学びを各家庭に持ち帰り実践するという家庭教育支援講座の意図したとおりの内容となりました。
- ・スポーツ推進審議会では、主にスポーツ施設設置条例規定施設の管理状況の報告や、指定管理者の評価に関する審議を行いました。

## 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇審議会等の開催回数(スポーツ推進審議会)	回	3	※1 2	3	3			5
○審議会等の開催回数(社会教育委員会議)	回	4	※2 4	4	4			4

※1 スポーツ推進審議会は第3回審議会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

※2 社会教育委員会議は臨時会を1回開催しました。また、第4回定例会を新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

## 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
◇スポーツ推進審議会審議案件数	件	6	2	8	6			6
○社会教育委員会議審議案件数	件	8	6	5	6			8

担当:○図書・学び交流課、◇スポーツ課

## 今後の課題

- ・社会教育委員会議では、アウトリーチ型の家庭教育支援講座を平成30年から自ら主宰して実施してきましたが、今後はこうした取り組みを地域が主体的に担い、持続可能な地域ぐるみの支援体制づくりを目指し、取り組んでいく必要があります。

## 個別目標3—(3) 関係機関との連携推進

- ・市民の学びの裾野を広げていくなかでは、学びに関わりのある様々な組織や個人の協力を得ながら取り組んでいく必要があります。

## 【めざす姿】

多くの組織や個人が行政と連携して、市民の学習活動に貢献している。

## 【施策の内容】

- ① 学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
  - ・学校との連携を図りながら、学校施設を地域の「学びの場」として開放します。
  - ・民間教育機関、市民の学習団体や個人ボランティアなどとの連携により、その教育力を生涯学習推進施策に活用します。
- ② 地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。
  - ・地域で活躍する各種団体や機関と連携し、学習のための環境づくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成や活性化を図るため、団体等の活動を支援します。
  - ・地域スポーツを支えるスポーツ指導者の育成やスポーツ環境を充実させ、地域スポーツの振興と安全なスポーツ活動を推進します。

## 個別目標3-(3)を達成するための主な取組

### 1 地域ボランティア・団体との連携 (市長部局所管 担当:図書・学び交流課)

(教育委員会所管 担当:こども・青少年課)

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。  
②地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。

- ・学習センターでは、市民のさまざまな学習ニーズに応じるために、パソコン・語学・手工芸など、趣味的なものから専門的なものまで、各分野の知識・技能・経験をお持ちの方を生涯学習ボランティア講師として登録し、学習者の希望に合った講師を紹介する、やまと生涯学習ねっとわあくを運用しています。
- ・やまと生涯学習ねっとわあく制度を広く知っていただくため、ボランティア講師を活用した「小学生夏休み体験講座」を行いました。
- ・成果指標である、ボランティア講師の利用件数については、前年と比較すると微増しましたが、依然として最終目標値を大きく下回っています。
- ・これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、学習者が講座の実施を控える傾向が依然として続いていることが理由とされます。
- ・青少年指導員は、各専門部会を開催するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、可能な範囲で地域の実情に合わせた活動（工作やどんど焼き等）を展開し、青少年健全育成に取り組みました。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○ボランティア講師登録数	人	171	159	126	131			153
●青少年指導員の委嘱人数 ※1	人	106	107	96	94			120

※1 地方公務員法及び地方自治法の改正により、特別職非常勤職員であった青少年指導員が、令和2年度からは教育行政協力員とされたため、現在は委嘱ではなく、依頼を行っています。

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○ボランティア講師利用件数	件	22	6	1	3			25
●青少年指導員の活動延べ日数	日	430	430	86	144			450

担当:○図書・学び交流課、●こども・青少年課

### 今後の課題

- ・今後は、やまと生涯学習ねっとわあくにおいてもオンライン環境を活用した、より利用しやすい相互の教え合い、学び合いの場の提供を検討していく必要があります。

## 2 学校開放事業の実施（教育委員会所管 担当:図書・学び交流課・スポーツ課）

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。

- ・市民の生涯学習、スポーツの活動の場として、市内の小・中学校9校を開放しています。
- ・学校の校庭や体育館だけでなく、音楽室・調理室・技術室などの特別教室も開放しており、様々な団体に利用いただいています。
- ・2021年度は、前年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から開放中止とした期間がありましたが、特別教室開放、スポーツ開放ともに利用者数は増加しました。
- ・特別教室開放の利用者数の回復が、スポーツ開放と比べて鈍いのは、教室が屋内で閉鎖的な感じを受けること、代替の会場が多くあること、事業そのものの認知度が低いことなどが考えられます。

### 活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○特別教室開放 施設数	施設	9	9	9	9			9
◇学校施設のスポーツ開放利用 団体数	団体	456	430	414	399			476

### 成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (2017)	実績値					最終目標値 (2023)
			2019	2020	2021	2022	2023	
○特別教室開放 利用者数 ※1	人	16,094	16,038	2,286	4,730			17,766
◇学校施設のスポーツ開放利用 件数 ※2	件	14,350	13,279	7,205	9,625			15,082

担当:○図書・学び交流課、◇スポーツ課

※1 特別教室開放については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため以下の期間中止しました。

2020年度:4月～8月、1月9日～3月21日

2021年度:4月28日～6月20日、7月22日～31日、8月26日～9月30日

※2 スポーツ開放については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため以下の期間中止しました。

2020年度:3月2日～7月14日、1月9日～3月21日

2021年度:4月28日～6月20日、7月22日～31日、8月26日～9月30日

### 今後の課題

- ・特別教室開放の存在を知らないために利用していない方もいると思われるため、効果的なPR活動を検討していく必要があります。
- ・学校施設のスポーツ開放では、校庭や体育館などの施設利用率が高くなっているため、施設ごとの稼働率を考慮した利用方法等の検討を行っていく必要があります。

個別目標3—(3)関係機関との連携推進

[達成度]

B



### [施策目標3に対する総合評価]

施策目標3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります	[総合評価] B
----------------------------	----------

- ・学習環境の来館者アンケートにおいて84%の方から満足しているとの回答を得ることができたのは、利用者懇談会での意見などをもとに日々見直しを行い、快適な学習環境となるよう努めてきた結果であると考えています。
- ・どこでも講座、生涯学習ねっとわあく、学校開放事業は、地域のボランティア、他の団体と連携、協力しながら実施しているものであり、これらについては、適切に運用が図られていると考えますが、一方で、利用率については、コロナの影響を除いたとしても、成果を高める余地があったと考え、施策目標3の総合評価としてはBと判断しました。

### [施策目標3の目標達成に向けた施策の展開方針]

#### 【図書・学び交流課】

- ・引き続き、利用者の声を活かしながら、学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
- ・利用者懇談会での意見や来館者アンケートなどをもとに改善した内容を、館内に取組み状況として掲示します。
- ・特別教室開放事業は、学習センターに比べ、利用率や開放校の認知度は、まだ少ないものと捉えています。近隣の学校を生涯学習活動に活用できるよう、学習センター利用団体に対するPRの方法を検討します。

#### 【スポーツ課】

- ・学校開放事業実施委員会と連携を図りながら、学校施設を利用してスポーツ及びレクリエーション活動の場を提供することで、地域の利用者のスポーツ活動の促進およびそれによる健康増進を行っていきます。

#### 【こども・青少年課】

- ・子どもが様々な体験活動を通して学ぶための環境や仕組みを充実させるためには、青少年指導員をはじめとする地域の各種団体や機関が協力していくことが不可欠であり、相互に連携を図っていけるよう支援していきます。